

2015年 11月号(第2号)

作成・発行 立命館大学 文学部 人文学科
地域研究学域 京都学専攻

【目次】

1. インターンシップ紹介(宇多野ユースホステル)
2. 先輩から後輩へ
3. 立命館京都学研究会
4. 立命館慶祥中学校2年生京都研修

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
(Tel/Fax 075-466-3485)
(Mail: aso0605@fkc.ritsumeai.ac.jp)

1. インターンシップ紹介(宇多野ユースホステル)

前回のニューズレターでも紹介しましたが、地域の方々との連携を中心に実施されているインターンシップのうち、今回は宇多野ユースホステル(宇多野YH)の活動をもう少し詳しく紹介します。

宇多野YHとは、右京区太秦にあるユースホステル(様々な人種・国籍・宗教の違いを乗り越えて相互理解を深める旅をする人のための安心かつ安価な宿泊施設)です。

主な活動は、世界各国からの旅行者に向けた京都の伝統文化やおすすめの観光スポットを紹介する様々な①イベントや展示の実施のほか、こうした②イベントの企画・運営や、③京都のガイドマップの作成です。

(これらの写真はいずれも2014年度のもので、昨年の受講生の山田さんに提供して頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。)



日本文化を体験中!



もちつき
(ハッピーを着ているのは、
インターンシップの受講生です)





観光ガイドに載っていない、
京都の隠れた名所をインターンシップ受講生が探し、
プレゼンテーションします。
それらを地図にまとめたものが「**キョウノヨリミチ**」です！



このインターンシップを通じて、宇多野YHの職員の方々をはじめとする地域の方々、そして旅行者の方々と共に学び、共に作り上げていく達成感を味わえますし、京都の伝統文化の国際的なアピールもできます！地域の方々のみならず国際的な交流を通して歴史・文化を学び、発信する経験は、卒論の作成や卒業後の進路を考えるうえで、きっとあなたの役にたちます！

2.先輩から後輩へ

倉部 一星(立命館大学 大学院 文学研究科 日本文学専修 博士課程前期課程)

京都に生まれ育ち、大学で京都学専攻に進んだ私は、他府県出身の友人に比べると問題意識を持つことが苦手でした。なぜなら、彼らが疑問に思うことは、私にとって言わば「当たり前」の事象であり、歴史や地理を学ぶことは好きであっても、研究する意義をなかなか見いだせずにいたからです。

そうして行き詰まっていた2回生の秋、ゼミ選択で悩んでいるときに会ったのが文学でした。以前から、京都を舞台とした文学作品をよく読んでいましたが、そこに表れる〈京都〉の範囲や視点など、その描写が作家によって大きく異なることにおもしろさを感じていました。歴史や地理とは違い、文学は、作家がある目的をもって空間を自在に切り取った結果生まれたものです。なぜ、その時代に、その場所の、そこに居る人々を——つまり、空間を描こうとしたのか。こうした問題意識が生まれると同時に、文学であれば、京都人である自分の強みを生かしながら研究に向き合うことができると思い、芥川賞作家である平野啓一郎の『高瀬川』という作品で卒業論文を書きました。この作品は現代を描きつつも、その下敷きには森鷗外の『高瀬舟』があり、「高瀬川」という空間における一つのイメージが継承されています。

その後、大学院では日本文学専修に進み、〈京都〉というフィールドはそのままに、本学にも籍を置いていた水上勉(みづかみ・つとむ)の作品を研究しています。このように、文学の道に進んでからの日はまだ浅いですが、作品の空間を立体化する過程で役立つのは、京都学専攻で培ってきた歴史や地理の知識、そして研究手法です。また、考えが行き詰まったら、気分転換がてら現場を歩いてヒントを探ることができるのも京都学の魅力でしょう。机上に留めることなく、ぜひフィールドの空気を吸い込むことを大切にしてください。